



♪ ミュージック・ケア ♪ 親子で楽しみませんか！

ミュージック・ケアは「だれでも、どこでも、いつでも楽しめる」音楽療法です。

ミュージック・ケアの中で、しゃぼん玉がそーっとふくらんでいくのを見つめていると、自然と心がふれあい、やさしい気持ちになります。鈴やバチ等楽器を使ったリズム打ちや合奏は、同じ動作をする者同士に、安心できる空間と信頼関係が生まれます。たった一枚の布なのに曲に合わせてバルーンを動かすとみんなの気持ちが一つになります。

流れる音楽と講師の先生のやさしい声かけに、いつのまにか心がほぐれていき、みんな笑顔になります。子どもたちだけでなくお母さんたちにとっても、安心して参加できるプログラムになっています。子どもの情緒が安定するためにはお母さんの情緒の安定が何より大切です。どうぞ親子で気軽に参加して下さい。

今後の予定	第4回 11月9日(土)	第5回 12月7日(土)	第6回 2月8日(土)
	〈時間〉 10:00~11:00 〈場所〉 八幡浜市保健福祉総合センター4階多目的ホール		



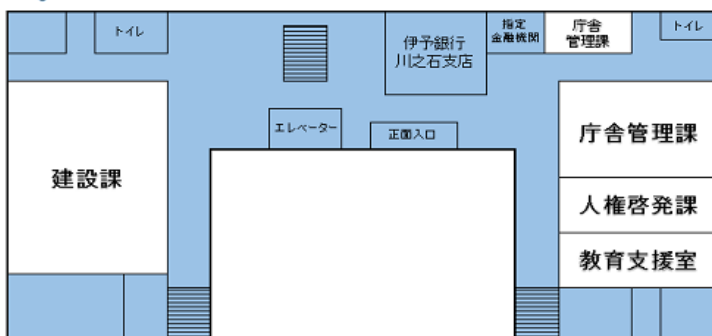
スクールライフアドバイザーのつぶやき

いきなりですが・・・「結婚」とは、人生においてなかなか重い決断です。人間のストレス点数表というのがあって、1位は配偶者の死、2位が離婚、7位が結婚となっています。実は、結婚も人間にとってはなかなかのストレスのようです。性別、育った環境、家族が違うそんな2人が、新しい家族を形成するということは大変なことです。例えば、夫の家族が白色、妻の家族が赤色とします。自分の育った家族の色をお互いが主張するとどうなるでしょう。白の方は白しか知らない。赤の方は赤しか知らない。しかし、間に生まれた子は、ピンクなんです。親の方が、ピンクを目指さないとどうなるでしょう？ つまり、親の方がピンクになるようにすれば、家族がまあまあ上手くいくということかもしれませんね。



ねえねえ
教育支援室の場所って
わかったあ？

1F



うん！
保内庁舎1階やった。
直通電話教えてもら
たで。21-6864



6月15日「発達支援に関する講演会」の講師・四国学院大学の野崎晃広先生の講演から

心に残った言葉 を紹介します。

発達に不安を持っている子どもの子育てをしている保護者は・・・

- ・頑張っているけど・・・うまくいかない。
- ・モンスターペアレントと思われてしまう。
- ・頑張っていないと言われる、見られる。
- ・我が子を理解しようとしているけど、うまくいかない。
- ・親だから分かることもあるが、分からないこともある。
- ・いつまでに、何をどのように頑張ったらいいの？

- ・我が子にこういう力をつけたいんですけど、先生どうしたらいいですか？と先生に投げかける。そのためには、親も勉強して、我が子のことを知らないといけない。
- ・設定した目標のために、今できることから始めなければいけない。
- ・支援の必要な子の親は、楽しんで子育てしてはいけない。手間をかけて育てないといけない。しかし、親はいい親を演じようとしなくてよい。無理な時は無理と言ってよい。
- ・家で宿題をしないなら、学校に支援をお願いすればよい。

- ・じいちゃん、ばあちゃんは昔の子育てを押し付けてはいけない。

- ・先生は、学校でのことを保護者に事実報告するが、マイナスなことは「本人には言わないで下さいね」と、ひとこと添えることが大事。

- ・IQが高い発達障がいも大変なことはある。勉強ができるからいい、というものではない。

- ・好きなことが職業になるとラッキーだが、仕事は他の事をして、好きなことは趣味にすると、精神衛生面が安定する。

- ・望ましい行動をしたら、関わりを多くする。望ましくない行動をした時は、関わらない。
- ・子どもは心が満たされないと、自分よりも弱い者に攻撃してしまう。

- ・じりつって何？「自立？」「自律？」
- ・こっちの「自律」が大事。自分で決めたことは実行しやすい。

- ・子育てのゴールはどこ？
- ・学校の先生は、18歳の春をゴールにしてる？ それでいいの？
- ・親のゴールは親亡き後。

- ・親子関係に緊張関係があると、子どもは親にヘルプを出してこない。親にヘルプを出せる子どもになってほしい。